

## 25年8月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成25年 7月20日～ 8月10日

## 2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
8月分の回答企業数は14社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合]×2+[「やや増加」の評価を行った回答の割合]-[「減少」の評価を行った回答の割合]×2-[「やや減少」の評価を行った回答の割合]÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## ア. 国産材

## (1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/8月	9月	10月
入荷動向	スギ	25.0	18.8	31.3
	ヒノキ	△ 28.6	28.6	42.9
	カラマツ	△ 100.0	△ 100.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
消費動向	スギ	31.3	31.3	18.8
	ヒノキ	△ 14.3	21.4	28.6
	カラマツ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 31.3	△ 12.5	0.0
	ヒノキ	△ 42.9	△ 21.4	0.0
	カラマツ	△ 100.0	△ 100.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

入荷は、スギは8月から3月連続のプラス基調、ヒノキは8月のマイナスから9、10月はプラスに、カラマツは8、9月の大きなマイナスから10月はゼロに、トドマツは横ばいで推移。  
消費は、スギはプラス基調、ヒノキは8月のマイナスから9、10月プラスに、カラマツは8月のゼロから9、10月大きなマイナスに、トドマツは横ばい。  
在庫は、スギ、ヒノキは8、9月ともにマイナスから10月はゼロに、カラマツは大きなマイナス基調、トドマツは横ばいで推移。

## (2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	25/8月	9月	10月
スギ	21.4	28.6	21.4
ヒノキ	50.0	41.7	25.0
カラマツ	0.0	50.0	50.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

スギ、ヒノキともやや強含みないし強保合で推移、カラマツは8月の保合から9、10月に向け強含み、トドマツは横ばい。

## モニターからのコメント

(原木荷動き) ・スギは雨で出材減少、消費動向は生産落としていない。 ・スギは民間原木市場での丸太出材がかなり減。7月からお盆前後にかけ物件が入っており残業等でカバーし消費は増加。在庫は虫害木も出てきており増やしていない。 ・カラマツは間伐等中心で入荷少なく9月以降皆伐となるが農繁期による輸送機能不足で入荷低調の見込み、トドマツは順調に入荷。消費はカラマツは予想に反し多忙な状況続く、多少回復と割安感がある。トドマツも羽柄材向け使用が安定。 ・スギは価格安値で推移、虫害は続いている。ヒノキも出材増えないため虫害にもかかわらず高値が続く。スギ中心に製材、ヒノキは高値買いせず当用買いである。梅雨明け後の出材が減少している。梅雨前に入荷材の製材に注力している。 ・梅雨明けから秋にかけて入荷は増加傾向、9月の台風次第で入荷量の幅が変わる、消費も同様、在庫は入荷増で増えると考え。 ・在庫調整済み、仕入れを意欲的に実施、安定供給体制に向け準備中、在庫は入荷少ない中一定量の生産キープのため8月は特に少ない水準。 ・スギ丸太は仕入晴天続きでやや増、消費も住宅着工増でやや増。 ・ヒノキ丸太の出材は7月から横ばい6m材は依然としてどの地域も減少傾向で集めにくい、消費は安定的な販売予測で3、4mは大きな変動もなく6mは原木次第で減らすことも考えている、在庫は痛みの影響で安いのが減らす方向、9月から少しずつ増やしていく。

(原木価格) ・スギは雨で出材減、スギ丸太やや上昇。 ・スギ丸太は当社では変動ないが、原木市場では丸太不足で中目材値上がりし14,000円/m3近くになっている。 ・カラマツ需要に供給追いつかず今後上昇傾向、トドマツは横ばいと予想。 ・入荷はスギは変わらず、ヒノキは減少で相場上昇。 ・スギは安値が続くが、虫害の恐れがなくなると値戻しありそう。ヒノキは製品相場とかけ離れた高値が続いているが、秋以降は出材が増え相場も落ち着くと見込む。 ・出材減少により、原木市場からは強気の交渉。 ・ヒノキ入荷は季節柄減少しているが盆明け頃から増加予定。 ・ヒノキ出材減少で気持ち強含みも量が出れば落ち着く。 ・秋に向け良材の入荷が見込まれ、原木(特に良材)価格は在庫が落ち着くまで上昇傾向にある。 ・7月より高値、ナイ高と各製材所も在庫少ないことが要因。 ・ヒノキは先月から下がると感じたが一瞬のことで依然として高値で推移、3、4、6m共にきびしい状況特に3、4mは量はあるが高値取引。

## 25年8月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## (3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/8月	9月	10月
生産動向	スギ	7.1	28.6	28.6
	ヒノキ	△ 16.7	16.7	16.7
	カラマツ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
出荷動向	スギ	28.6	42.9	42.9
	ヒノキ	0.0	25.0	25.0
	カラマツ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 8.3	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 41.7	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

生産はスギはプラス基調、ヒノキは8月のマイナスから10月に向けプラスに、カラマツは8月のゼロから9,10月は大きなマイナスに、トドマツは横ばい。  
 出荷はスギはプラス基調で推移、ヒノキは8月のゼロから9,10月はプラスに、カラマツは8月のゼロからマイナスに、トドマツは横ばいで推移。  
 在庫はスギは8月のマイナスから9,10月は横ばいに、ヒノキは連続してマイナスに、カラマツはゼロからマイナスに、トドマツは横ばい。

## (4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		25/8月	9月	10月
スギ	柱角 KD10.5×3	12.5	18.8	18.8
	柱角 KD12×3	0.0	0.0	6.3
	通し柱 12×6	7.1	7.1	7.1
	桁角	7.1	7.1	7.1
	母屋角	0.0	0.0	0.0
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	6.3	6.3	12.5
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	8.3	8.3	8.3
	ラミナ	0.0	0.0	25.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	8.3	8.3	8.3
	柱角 KD12×3	8.3	8.3	8.3
	土台角 10.5×4	16.7	8.3	8.3
	土台角 12×4	20.0	10.0	10.0
	通し柱 12×6	33.3	16.7	16.7
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4		0.0	—	—
" 梱包仕組み板		0.0	0.0	0.0
" ラミナ		0.0	0.0	0.0
トドマツサンギ		—	—	—

スギ製材品は母屋角、タルキ、ヌキは横ばい、それ以外は総じて保合ないし強保合い、ヒノキはラミナの横ばいを除き総じて保合ないしや強保合い。カラマツは総じて横ばい。

## モニターからのコメント

(製材品荷動き) ・スギ製材品は県内では盆前後に物件が重なっており残業してフル生産体制、出荷は県内外から注文が増加し今年末までは続きそう。在庫も生産増のため増加し注文あれば直ぐに納入できる体制。・生産はトドマツは小ロット、多品種、短期納入も忙しい状況続く、トドマツは羽柄材堅調推移、輸入材に対し割安、カラマツは短納期、小ロット対応が評価。・順調な荷動きで、品目によっては不足で注文を断るケースも。ヒノキは注文集中する4m土台を主体に、スギは間柱類が好調のため生産増。・消費税導入前の駆け込みがようやく感じられ始めた。・ヒノキについてプレカット工場の話では需要も少々出そう。・秋に向け良質の丸太が出て来ても、それに伴い製品の量もやや増加と予想。・安定した生産、出荷を予定、在庫は少ない水準で継続。・ヒノキの生産は販売状況を見てコントロール、荷動きは先月と変わらず羽柄材は依然荷動き悪い、出荷は構造材は今春以降安定的、在庫は完成品、仕掛品含め月販売量の1.3ヶ月程度でコントロール。

(製材品出荷価格動向) ・スギ製材品の注文多いが、単価上がらず。・原木価格も変わっておらず価格は先月と同価格。・カラマツ、トドマツとも現時点横ばい、秋以降需要と原料動向に左右される。・スギは順調な荷動きが年内続きそう、単価も横ばいか。ヒノキは丸太の高騰と不足で安い品が少なくなった、来月からは次第に落ち着きそう。・スギは一時的な需要増と考えられるため製品価格を上げるまでに至っていない、仕入先は依然として値上げを受け入れてくれない。ヒノキは、荷動きは順調だが、製品単価の上昇に至らず。・ヒノキの変動はない。・スギ、ヒノキとも7月までは秋下がると感じたが、現在は大幅な価格変動はないと思う。・ヒノキ価格は7月あたりはスギ製材品、集成材材の値上がりにつられて、いくつか値上げを試みたがそれ以降は変化なく推移。

## 25年8月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

## (1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/8月	9月	10月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	-	-	-
	北洋アカマツ丸太	-	-	-
	北洋アカマツ原板	-	-	-
消費動向	米マツ丸太	△ 25.0	25.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	-	-	-
	北洋アカマツ丸太	-	-	-
	北洋アカマツ原板	-	-	-
在庫動向	米マツ丸太	25.0	△ 25.0	0.0
	NZラジアータ	50.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	-	-	-
	北洋アカマツ丸太	-	-	-
	北洋アカマツ原板	-	-	-

製材用原木の仕入は、米マツ丸太、NZラジアータ丸太は横ばい。  
消費は米マツ丸太は、8月のマイナスから9月のプラスを経て10月はゼロに、NZラジアータ丸太は横ばい。  
在庫は米マツは、8月のプラスから9月のマイナスを経て10月は横ばい推移、NZラジアータ丸太は8月のプラスから9月のゼロを経て10月はマイナスに。

## (2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	25/8月	9月	10月
米マツ丸太	△ 50.0	△ 50.0	25.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	△ 50.0
北洋エゾマツ丸太	-	-	-
北洋アカマツ丸太	-	-	-
北洋アカマツ原板	-	-	-

米マツ丸太は8、9月のマイナスから10月のプラスに、NZラジアータ丸太は8、9月横ばいから10月はマイナスに。

## モニターからのコメント

(原木荷動) ・ラジアータは需要増がないため入荷・生産減量、在庫は多目のため減少中。

(原木価格動向) ・ラジアータは中国需要減退による下落を期待。

25年8月分

## 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

## (3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	25/8月	9月	10月
生産動向			
米マツ製材品	△ 25.0	25.0	0.0
NZラジータ製材品	0.0	0.0	50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向			
米マツ製材品	△ 25.0	25.0	25.0
NZラジータ製材品	0.0	0.0	50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向			
米マツ製材品	0.0	0.0	△ 25.0
NZラジータ製材品	0.0	0.0	△ 50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

製材品生産動向は、米マツ製材品は8月のマイナスから9月のプラス、そして10月は横ばい、NZラジータ製材品は8,9月の横ばいから10月はプラスに。

製材品出荷動向は、米マツ製材品は8月のマイナスから、9,10月はプラスに、NZラジータ製材品は8,9月の横ばいから10月はプラスに。

在庫は、米マツ製材品、NZラジータ製材品共に8,9月の横ばいから10月にはマイナスに。

## (4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	25/8月	9月	10月
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
米マツ正角	0.0	0.0	0.0
米マツ小割	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	0.0	50.0
NZ梱包材(割角)	0.0	0.0	50.0
NZ土木用材	0.0	0.0	0.0
その他	—	—	—

製材品の出荷価格動向は米マツ製品は総じて横ばいで推移、NZラジータ製品は梱包用材は8,9月の横ばいから10月はプラスに、土木用は横ばいで推移。

## モニターからのコメント

(製材品荷動き) ・米マツはしばらく横ばいの状況が続くと見通す。 ・ラジータ製材品は秋需に期待、在庫は減。

(製材品出荷価格動向) ・ラジータ梱包材は現在2,000~4,000円/m3赤字で10月以降再値上げが必要、土木用材は変わらない。